

# 仕様書

水素・アンモニア部

## 1. 件名

競争的な水素サプライチェーン構築に向けた技術開発事業／総合調査研究／日本国際博覧会を活用した水素の情報発信に関する調査研究

## 2. 目的

カーボンニュートラルに向けた大きな潮流として、各国の水素利活用に向けた動きは活発化している。また、水素の普及にあっては新しい技術が普及することも重要であり、一般の水素エネルギーへの理解を深め、社会受容性を高めることは、今後の水素社会構築に向けて必要不可欠である。例えば、「水素基本戦略（2023年6月改訂）」では、エネルギーとしての水素等に対する国民理解を深めていくために、丁寧な情報提供や継続的な対話が重要であり、そのために水素等に関する教育や普及啓発活動、理解促進のための場づくりを行っていく必要性が述べられている。また、2025年に開催予定の日本国際博覧会において、水素を国民が身近に感じ、体験することのできるような広報を官民協力の下でしっかりと行い、将来のエネルギー源の一つとして国民の社会受容性を高める、ことも謳われている。

NEDO が2015年度に実施した「水素社会構築に向けた社会受容性調査」においては、一般市民を対象としたアンケート調査の結果、水素のエネルギーとしての認知度は2割程度という低い結果が示されており、水素の便益に対する広報・コミュニケーションが受容性向上に有効ではないかと示唆された。その後、2019年度の「水素に対する社会受容性向上に向けた調査」および2020年度～2022年度の「水素社会実現に向けた情報発信に関する調査研究」を通じて、各種メディア、イベント等を活用した情報発信・普及啓発活動を展開し、水素に関する意識や関心、社会受容性が徐々に高まってきていることを確認している。

本調査では、広く一般をターゲットとし、水素エネルギーの重要性と未来の可能性について理解し、期待を高めてもらうことを目的に、日本国際博覧会の機会を活用し、「知る」だけでなく「体験」を通じた多角的な情報発信を行うとともに、その効果について検証する。

## 3. 調査内容

2025年日本国際博覧会における「地球の未来と生物多様性ウィーク」のうち、9月20日（土）～9月26日（金）の期間内（※準備、撤収期間を含む）において、「未来を変える！Hydrogen Week（仮称）」と題した水素の情報発信イベントをNEDO、資源エネルギー庁及び水素バリューチェーン推進協議会（JH2A）の3者による共催で開催することとした。本イベントでは、若年層を中心に広く一般国民に対して、水素の重要性と未来の可能性を伝えることを目的に、映像コンテンツや技術展示、体験ブースなどを通じて、戦略的な情報発信を実施するとともに、イベント終了時には本調査による認知度向上等の効果検証を行う。

具体的には、当該イベントを活用する形で、以下①～③の内容を実施する。

## ①情報発信の企画検討

「未来を変える！Hydrogen Week（仮称）」を活用して行うべき情報発信の企画（訴求メッセージやキービジュアル等含む）を検討する。検討にあたっては、別紙に示す通り、シアターゾーンの設置、シンボリックなモニュメントの設置、水素関連技術展示及び体験ゾーンの設置を含むものとする。また、当該イベントの注目度や集客率等を向上させるためには、著名人等とのタイアップを含んだ検討も想定される。

水素関連技術展示にあたっては、出展企業・研究機関等と協議のうえ、展示アイテムやレイアウト等の調整を行うこと。

また、当該イベントを一過性のものとして終わらせることはないよう、イベント期間後にも振り返りや追体験ができるような仕組みを検討する。

なお、具体的な企画内容は、NEDO、資源エネルギー庁及び水素バリューチェーン推進協議会（JH2A）とも協議の上決定することとし、その協議内容も踏まえて柔軟に変更すること。

## ②情報発信の実施

### （1）各種コンテンツの製作・実行・発信およびイベント運営

①で検討した企画に基づき、水素の更なる認知の向上及び理解の深化につながる各種コンテンツを製作・設置する。なお、シアターゾーン（別紙参照）における映像コンテンツ、機器等については、水素バリューチェーン推進協議会（JH2A）が実施する別事業での製作を予定しているため、本調査事業においては製作対象外とする。具体的な製作対象物に関しては、NEDO、資源エネルギー庁および水素バリューチェーン推進協議会（JH2A）とも協議の上決定することとする。

「未来を変える！Hydrogen Week（仮称）」会期中はイベント運営も行う。

### （2）メディア等を活用した情報発信

当該イベントの認知度、集客率向上のため、来場者数及びメディア露出件数（イベント会期前後含む）にかかる目標値を設定し、多くの人が様々な機会で広く目にすると思われるメディア（新聞、デジタルメディア等）、その他イベント等を活用した効果的な周知を行う。

## ③情報発信に関する調査分析

### （1）来場者を対象とした意識調査

来場者に対するアンケート調査等によって、イベント体験前後における水素エネルギーに対する認知度等の比較・分析を行うことにより、当該イベントがもたらすことができた情報発信効果を測定する。

### （2）2025年度末時点における定点意識調査

2019年度および2020年度～2022年度にNEDOが実施した定量意識調査を参考に、2025年度末の水素エネルギーに対する認知度の目標を80%として、達成状況や要因を分析する。

これらの分析結果を基にして、水素社会の実現に向けた2026年以降の取組方針に関する広報戦略を検討する。

#### 4. 「未来を変える！Hydrogen Week（仮称）」概要

- 日時 : 2025年9月20日（土）～9月26日（金）  
（うち、製作物等の設置期間：9月20日（土）～21日（日）、撤去期間：9月26日（金）を想定）
- 会場 : 日本国際博覧会会場内「EXPO メッセ」（展示面積4000m<sup>2</sup>のうち、2000m<sup>2</sup>を使用予定）詳細は別紙の通り
- 主催者 : NEDO、資源エネルギー庁、水素バリューチェーン推進協議会（JH2A）
- イベント概要 : 別紙の通り

#### 5. 調査期間

採択決定日から2026年3月31日まで

#### 6. 予算額

2.5億円以内

#### 7. 報告書

提出期限：2024年度終了時には中間調査報告書を、2025年度終了時には調査報告書を所定の期日までに提出すること。

提出方法：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って、作成の上、NEDOプロジェクトマネジメントシステムで提出すること。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

#### 8. 報告会等の開催

調査期間中又は調査期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。